

平成28年度
事業報告書

平成29年6月2日

学校法人YSE学園
横浜システム工学院専門学校

目 次

1.	法人の概要	1
2.	理事会及び評議員会の運営状況	1
3.	学校の概要	1
4.	学生数の状況、就職状況	2
5.	業務達成状況	3
6.	平成29年度に向けて	5

平成28年度事業報告書

1. 法人の概要

平成29年3月31日現在

法人名	学校法人YSE学園
所在地	〒241-0826 横浜市旭区東希望が丘 128 番 4
理事長	杉山 勝巳
理事	足立原 泰、酒井 達男、仲久保 正人、中村 伸行
監事	林 宇一郎、八木 一郎
評議員	杉山 勝巳、青木 聡、秋山 恵美子、浅川 佑 酒井 達男、佐藤 登志徳、清水 洋平、富永 英世 仲久保 正人、堀江 明

2. 理事会及び評議員会の運営状況

開催年月日	名称	議題
平成28年5月25日	理事会 評議員会	第1号議案 平成27年度事業報告 第2号議案 平成27年度決算報告 第3号議案 平成27年度監査報告 第4号議案 経理規程の一部変更について
平成28年12月14日	理事会 評議員会	第1号議案 設置学科の定員変更について 第2号議案 グローバルITビジネス科カリキュラムの追加について 第3号議案 学則の一部変更について 第4号議案 内部監査規程(案)について
平成29年3月22日	理事会 評議員会	第1号議案 平成28年度収支補正予算(案)について 第2号議案 平成29年度事業計画(案)について 第3号議案 平成29年度収支予算(案)について 第4号議案 B号館屋上の防水工事について

3. 学校の概要

平成29年3月31日現在

学校名	横浜システム工学院専門学校
所在地	横浜市旭区東希望が丘 128 番 4
学院長	杉山 勝巳
副学院長	仲久保 正人 (3/31定年退職)

第一教育指導室室長	青木 聡
第二教育指導室室長 (兼) 教務・学生相談室室長	堀江 明
教育広報推進室室長	馬場 健一 (4/1入校)
教務・学生相談室総括室長 WEB開発室室長	佐藤 登志徳
教育設備管理室室長代理	富永 英世
A I 共生教育推進室室長代理	山口 弘展
総務室室長代理	横山 由美子

4. 学生数の状況、就職状況

A) 卒業生数

平成29年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	進級者	卒業生	内訳_1		内訳_2	
					日本人	留学生	男子	女子
情報システム科	60	37	29	27	27	0	27	0
モバイル・ロボット科	25	12	12	11	11	0	11	0
情報デザイン科	25	12	8	7	6	1	4	3
情報ビジネス科	100	126	104	99	4	95	73	26
合 計	210	187	153	144	48	96	115	29

B) 卒業生就職・進学状況

平成29年3月31日現在

	就職者	大学	専門学校	その他	合計	
情報システム科	19	1	0	7	27	
モバイル・ロボット科	8	0	0	3	11	
情報デザイン科	4	0	0	3	7	
情報ビジネス科	40	5	5	49	99	
計	71	6	5	62	144	

C) 2年次進級者数

平成29年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	進級者	内訳_1		内訳_2	
				日本人	留学生	男子	女子
情報システム科	60	43	36	13	23	31	5
モバイル・ロボット科	25	8	5	5	0	5	0
情報デザイン科	25	9	9	9	0	4	5
情報ビジネス科	100	117	103	0	103	78	25
合 計	210	177	153	27	126	118	35

D) 入学者数

平成29年3月31日現在

学 科	入学 定員	入学者	内訳_1		内訳_2	
			日本人	留学生	男子	女子
IT・ゲームソフト科	40	41	15	26	36	5
ロボット・IoTソフト科	20	13	9	4	13	0
コミック・CGアニメ映像科	20	7	3	4	5	2
グローバルITビジネス科	160	160	0	160	136	24
合 計	240	221	27	194	190	31

5. 業務達成状況

A) 教育基本方針

自己
評価

- 1 アクティブラーニングや産学連携教育等を取り入れ、職業実践専門教育を展開することにより、教育満足度の向上を図る。 A
- 2 地元就職の強さをアピールできる就職実績をあげる。 B
- 3 ドロップ率が10%を上回ることはないよう指導を徹底する。 B
- 4 教職員の意識改革、教育力、教員力向上の一環として、教職員研修は随時行う。 B
- 5 第三者評価を年内に受けられるように準備を進める。 A
- 6 広報部門及び各学科はそれぞれに、人型ロボット「Pepper」の活用方法を検討し、積極的に活用してゆく。 B

B) 教育指導目標

- 1 学科ごとに前年度を超える教育成果を上げる。 B
- 2 学科ごとにグループ意識と連帯責任をもってクラス運営・授業にあたる。 A
- 3 企業との連携授業、コラボレーション等を積極的に活用する。 A
- 4 アクティブラーニング、グループ制作等を通じて、学生がどれだけ身につけたか、コミュニケーション力がどれだけ伸びたかを把握しながら指導にあたる。 A
- 5 達成感・勝利体験・感動体験などに繋がる検定試験やイベントを有効に活用し、仲間と互いを磨き合える教育、やればできる自分に目覚めさせ、自信とやる気を促し、未来を夢見る雰囲気づくりのできる指導を行なう。 A
- 6 日頃から休学・退学・除籍の引き金となりがちな根っこを未然に取り除くよう努める。 B
- 7 オリジナル教科書の制作・活用を進める。 A
- 8 卒業制作は、産学連携で取り組めるように努める。 B

C) 就職指導目標

- 1 地元就職先の開拓に努め、すべての学生が就職内定するまで責任ある指導を徹底する。 B
- 2 学生には、インターンシップの機会を与え、就職に繋がるように努める。 C
- 3 卒業生の就業状況・活躍状況を適時フォローする。 C

D) 学生募集目標

- 1 工業専門課程各学科の定員充足率は限りなく100%に近づける。 D
- 2 商業実務専門課程の定員充足率は100%を達成する。 A
- 3 体験入学等参加者数は、出願率に見合った数を確保する。 D
- 4 ゼロサムのサバイバルに勝ち抜くために、高校の学科タイプに応じた訪問や資料請求者等へのフォローをきめ細かに行う。 D
- 5 広報資料の電子化を進め、タブレットを活用した広報活動を展開する。 C
- 6 Y S e y e、Y S E n e w s、デザインコンテスト企画等、アプローチ方法を工夫・実践する。 B
- 7 ホームページの充実を図る。 B

E) 情報システム科目目標

- 1 基本情報技術者試験等の合格者数は前年度を上回るよう指導にあたる。 C
- 2 神情協コンテスト入賞、全情協ゲームコンペ入賞等をめざす。 B
- 3 情報サービス系企業との産学連携授業の充実を図る。 A
- 4 情報システム科（通信制）の定員確保に努める。 E

F) モバイル・ロボット科目目標

- 1 基本情報技術者試験等の合格者数は前年度を上回るよう指導にあたる。 C
- 2 全情協ロボコン/自律走行ソフトウェア競技部門、二足歩行ロボット競技部門、共に優勝に向けできる限りの準備を尽くす。 A
- 3 組込み・ロボット系企業との産学連携授業を取り入れる。 A

G) 情報デザイン科目目標

- 1 産学官連携デザインラボを推進する。 A

- 2 前年度を上回るコンテスト入賞をめざす。 C

H) 情報ビジネス科目標

- 1 留学生の半数以上が日本語能力試験 2 級以上に合格するよう指導にあたる。 D
2 流通サービス系企業との産学連携授業を取り入れる。 C
3 日本理解やグローバル小売業界理解に繋がるグローバル小売業や先進的企業等の見学の機会を定期的に設ける。 B

I) その他

- 1 施設警備 A
2 施設補修管理 A
3 施設定期点検 A
4 実習設備管理 A
5 データ外部保管 A
6 防災訓練 C
7 同窓会運営 C
8 総務事務 A
9 教務事務 A
10 留学生事務 A
11 広報事務 A

6. 平成 29 年度に向けて

A) 経営目標

- 1 地域社会の情報化及びグローバルな情報化に職業実践的な情報化人材育成面で貢献
2 文部科学大臣による職業実践専門課程認定校に相応しい職業実践的な情報化人材の育成
3 ISO 29990 による第三者評価認証校に相応しい教育マネジメントシステムの充実

B) 経営実践

- 1 情報公開に耐えられる経営の健全性保証及び教育の質保証／経営 P D C A の充実
2 教職員の能力開発／対人関係・教育内容・教育方法等に関わるコンピテンシーの

向上

- 3 繋がる・繋げる力の向上／対学生、対保護者、対企業、対高校教諭 etc
- 4 続ける・やりとげる力の向上／決め事、目標 etc
- 5 A B C (ALL BETTER CHANGE) マインドによる創造的取り組み
- 6 Googleの教育サービス活用による業務改革

C) 教育実践

- 1 教育P D C Aの充実
- 2 シラバス及び教材の充実及び相互利活用
- 3 教職員の相互連携の推進
- 4 産学連携教育の充実
- 5 就職率及び教育満足度の向上
- 6 Googleの教育サービス活用による教育指導改革

D) 学生募集実践

- 1 学生募集P D C Aの充実
- 2 学生募集活動とホームページ広報のタイムリーな同期
- 3 季刊誌「Y S e y e」の充実・有効活用
- 4 体験入学等参加者の増加及び出願率の向上

以上